

平成20年度

鹿児島県地域福祉推進大会

～あんしん・安全に暮らせる地域社会づくり～

平成20年度鹿児島県地域福祉推進大会が、昨年12月10日、県民交流センター県民ホールにおいて県内の福祉関係者560名の参加のもと、栄えある表彰式と最近の福祉の動向についての講演が行われました。



この一年の間に世界経済を取り巻く情勢は大きく変化し、とくに9月以降の国際金融情勢は「100年に1度」とも言われる大激動の様相を呈しており、これらが社会福祉に及ぼす影響等についても十分注意しながら活動をしていかなければと思います。さて、本年3月末に厚生労働省から「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告」が公表されました。この報告書については、社会福祉協議会や民生委員・児童委員が地域の中で果たしている役割について十分には把握されていない点があり、また今後の地域福祉の展開のあり方（活動母体の圏域・財源の確保等）についても意見を述べる必要を感じました。そこで私どもは、九州各県の社会福祉協議会の意見を取りまとめ、地域福祉活動の基礎となる適切な圏域の設定や既存施策の問題点、財源の確保といった事項について意見書を作成し、10月に厚生労働省及び全国社会福祉協議会に対して提出した次第です。私も11月の全国社会福祉協議会理事会で同旨の意見を述べて参りました。私どもは今後も地域福祉の中核的推進組織である社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会、関係機関、団体等との連携を深め、地域のニーズや課題に迅速かつ適切に対応できる体制の強化を図り、あんしん・安全に暮らせる地域社会の構築に努めて参る所存です。

主催者あいさつ(要旨) 県社会福祉協議会 県共同募金会会長 今吉 弘

社会福祉の増進に 貢献された方がたの表彰式

大会では永年にわたり県内の福祉の充実のため格別の御尽力をいただいた個人・団体等に対する表彰が行われました。受賞された方がたの御功績と御労苦に対し、深く敬意を表します。



県社会福祉協議会会長表彰

- ・表彰状 169名、9団体
- ・感謝状 2名

県共同募金会会長表彰

- ・表彰状 10名、10地区
- 12支会分会

全国社会福祉協議会会長表彰伝達

- ・表彰状 12名

中央共同募金会会長表彰伝達

- ・感謝楯 3団体
- ・感謝状 4名、8団体



ねんりんピック を振り返って...



大会では、会場入口に昨年10月25日から28日までの4日間、県内10市3町で盛大に開催された「第21回全国健康福祉祭かごしま大会ねんりんピック鹿児島2008」の写真パネル展と、ねんりんピックの模様を写したビデオの放映も行い、参加者の皆さんは、本県にとって50年に一度の大きなイベントの記録をあらためて感慨深く見入っていました。

講演 記念

記念講演の要旨

講師：鹿児島県社会福祉協議会 常務理事兼事務局長 諏訪弘美

■わが国の福祉を取り巻く諸情勢

世界的な金融危機、経済の後退局面の下で、わが国でも雇用情勢は極めて厳しく、社会保障に係る国や県・市町村の財政事情も大変厳しくなっている。このような中で、格差社会の問題、限界集落の問題、児童虐待など深刻な問題も同時進行している。

■地域福祉のあり方について

「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告」は今後の地域福祉施策に大きな影響を与える。地域における新たな支え合いの確立や地域の生活課題への的確な対応などができるよう私たち県社協も必要な提言や活動を今後行うが、皆さんと連携を図りながら地域福祉の充実のためにさらに積極的な活動を推進していきたい。

■新たな展開を目指して

制度の谷間にある課題への対応も含めて、公的制度・施策に基づくサービスだけではカバーしきれない問題が顕在化してきている。本会では新たな取り組みとして、生活保護世帯を対象に生活力向上のための試行的なモデル事業の実施、障害者の自立支援の事業も展開している。量的にも質的にも多様化する地域における福祉ニーズに的確かつ迅速にサービスを提供していくことが求められている。



これからの地域福祉の
あり方と新たな展開